

第3回学ぶ喜び・ESD連続公開講座 概要報告

- ◇ 開催日時 平成28年7月6日(水) 19時～21時
- ◇ 会場 奈良教育大学次世代センター2号館多目的ホール
- ◇ 内容 「忍性の生涯と救済活動」 奈良国立博物館 列品室長 吉澤 悟 氏
- ◇ 参加者 29名

(1) はじめに

現在、まだ図録の作成中である。準備が十分にできなかったが、知っている範囲で忍性さんのことをお伝えしたい。

読売テレビの協力のもと、DVDアニメーションを制作した。忍性さんの生まれ故郷に浄土寺がある。その住職さんが忍性さんのことを広めたくて、自費で絵本をつくっておられた。それに目が留まり、DVDをつくることとなった。博物館120年の歴史の中で初めてのことだ。まだ公開はしていないが、先日、奈良市立伏見小学校で贈呈式をさせていただいた折に見ていただいたものだ。同じものをここで見ていただこうと思っている。ナレーションは南こうせつさんをお願いした。南こうせつさんがスペシャルサポーターだ。博物館で流すものと学校で使っていただくものは同じDVDだが、図録につけるDVDはア



ナウンサーの声となっている。アニメーション化したのは奈良芸術短期大学の学生さんだ。授業のなかで作成したいただき、それを奈良の学校で活用していただけると、いい循環になると思う。忍性さんの生涯を追いかけた10分程の作品になっている。

DVD鑑賞

忍性さんの人柄

慈悲に過ぎた あまり学問はできなかったが、行動力のある人だった。
貧しい人、病気の人の救済に尽くした人だった。

(2) 学校教育で忍性さんをどのように扱っていくのか

律宗とは何かといった、宗教めいた話は入れない方がいいだろう。律宗は「お釈迦さんに帰る」を実践している集団であり、忍性さんの行動もそれが具現化されたものだが、宗教を強調しすぎると、忍性さんという個人がぼけてしまう。忍性さんはなぜそのような行動をしたのか、という個人の行動に焦点化したい。当時は、病に対して今のような薬もない。特にハンセン病は、業病と呼ばれ、見た目も醜くなることもあり、感染を恐れ、誰もが忌み嫌う病気だった。そのような病者を救済した、行動で表したところが忍性さんの素晴らしいところだ。

彼らの行動は「かわいそう」だからではない。自分が試されているからだ。「文殊菩薩は、一番悲惨な人の姿となって、現れる」と信じられていた。だから、文殊菩薩の生まれ変わりとしてハンセン病患者に接した。その背景には、母親の影響で子どもの頃に文殊信仰にふれてということがあろう。信貴



山や安倍の文殊院にも通っていたようだ。

(3) 展示物を通して

ここからは、写真映像をもとにお話したい。

①忍性像（鎌倉:極楽寺）漆塗り

鼻が大きい、ゴリラ系の顔立ち、人好きのする顔立ちだ。目が濟んだ優しい印象だ。

象だ。

「この顔は何を語りかけているんでしょうね」と問いかけ、子どもたちと忍性さんを近づけてほしい。叡尊の救済活動をさらに発展させたのが忍性だと考えられる。

叡尊は戒律を厳しく守った人だった。例えば、午後は食事をしなかった。叡尊像には、そういう厳しさといったものも表れている。忍性像と比較してほしい。

②極楽寺の境内図

今はこんな大きなお寺ではなくなっている。忍性さんが入る前は、浄土系の小さなお寺だったと言われている（寺の名前から推測される）。それが忍性さんにより律宗系の大きな寺院になった。この図の左下に籟宿とある。ライ病患者がここで身を寄せることができた。近くに浴室もある。湯室もある。療病院がある。こられの施設の充実ぶりに忍性の思いが読み取れる。

坂下馬病屋：年老いた馬、病気の馬はつぶされた。そのような馬も助けたい。生きとし生けるものを助けたい。（馬になって文殊菩薩が表れるということはお経にはない）このあたりにも、忍性さん独自の思いが表れていると思う。

③発掘品

このあたりから発掘されたもの。カワラケ（使い捨てのもの）、よく見るとタールがある。きっと灯火に使ったんだろう。

④釈迦如来立像（極楽寺）

清涼寺式：三国伝来（インド→中国→日本）

透けるような衣のひだ、髪の毛が螺髪ではなく、縄目が巻いたようになっている。（ガンダーラ仏もこのようになっている。こちらの方がオリジナルかもしれない。西大寺の釈迦如来像のこれだ）

⑤十大弟子像

表情、姿がリアルな表現になっている。

⑥文殊菩薩画像

獅子に乗っている。右手に剣、左手に蓮の花

⑦北山十八間戸

療養施設、救済施設としてつくった。当時の文書には般若寺の北側にあったと記されている。今の場所とは違うのではないか。また般若寺には一丈六尺の文殊菩薩像があった（叡尊作）といわれている。そこは、救済センターであったということを示している。

北山十八間戸がつくられた場所は、京都と奈良を結ぶ人の往来のあるところ。物乞いができるところだった。こういうところに何人収容で来て、何が必要だったのかを考えてみるのもいい。

⑧忍性さんの菩薩号

忍性さんは亡くなってから、朝廷より菩薩号を贈られた。菩薩号を贈られるのは、人々を救うために奔走した人 お坊さんの中で特にすぐれた働きがあった人：行基、叡尊、覚盛、忍性
菩薩号を贈られた人は、何をした人なのかを考えてみるのもいい

⑨忍性の五輪塔

忍性のお骨は三分割された。極楽寺、竹林寺、額安寺

⑩忍性の骨壺（水瓶様）

極楽寺：地輪の中におさめられていた。表面に忍性の事績が彫られている。

額安寺：五輪塔の下におさめられていた。

竹林寺：五輪塔（復元）、明治に廃仏化した。忍性塔が破壊されていた。その下に骨壺が見つかった。

壺の形はそっくりだが、文字の筆跡は違った。竹林寺の五輪塔には様々なものがおさめられていた。忍性さんを慕う人々のものだろう。行基さんのお墓と忍性さんのお墓、二つの菩薩の墓があることに関係あるのではないか。

忍性さんを学校で取り上げるには、「救済」という言葉がキーワードだろう。でも「かわいそう」ではない。自分が何ができるかだろう。「十種の請願」の意味をよく考えてみたい。
雨ごいも人を助けることだった。

綿谷氏（読売テレビ）

忍性さんのことを多くの人、特に小中学生に知っていただきたく、アニメDVD作成にご協力させていただいた。忍性さんの救済活動は、初めはお母さんの影響があったのだろう。でも、そののちには、「十種の請願」にも見られるように、信念になっていった。換言すれば習慣から信念に変化している。なぜ、信念に変化していったのか、その契機は何だったのか、なども学びの切り口になると思う。



「十種の請願」

- ①力の堪ゆるところにしたがって三宝を紹隆すること。
- ②三時の勤行、二時の談義ならびに二時等の出仕などをおこたらないこと。
- ③三衣一鉢は遊行の時も必ずみずからこれを持つこと。
- ④病気でない限り輿（こし）や馬に乗らないこと。
- ⑤特定の檀那の別請を受けないこと。
- ⑥孤独、貧窮、乞食人、いざりや牛馬の路頭に捨てられたものにも、憐れみをかけること。
- ⑦陰難には道を造り、水路には橋を渡し、水無きところに井戸を掘り、山野には薬草、樹木などを植えること。
- ⑧われに怨害をなし、毀謗を致す人にも、善友の思いをなし、済度の方便とすること。
- ⑨点心を用いることは永くこれを禁じ、とくに調理に手間をかけた食物を断つこと。
- ⑩以上修するところの願行功德に、もし勝利あらば、一分も我が身にとどめることなく、ことごとく十方界の衆生に施与すること。

（出典：「忍性 - 慈悲ニ過ギタ -」松尾剛次、ミネルヴァ書房、2004年、p.124）